

校務改善NEWS 第19号

発行日 平成29年3月29日

発行 校務改善推進会議
事務局 東京都教育庁人事部職員課
新宿区西新宿2-8-1 都庁第一庁舎北側36階

校務改善推進事業発表会

日時 平成28年11月4日
午後2時15分～
場所 東京都教職員研修センター
参加者 297名

▶ 校務改善推進事業発表会 事例発表の紹介です！

昨年11月に、校務改善の推進に向けた活動の一環として、校務改善推進事業発表会を行いました。

「様々な学校の具体的な取組を学びたい」、「教育委員会の取組を知りたい」というご要望にお応えして、昨年度校務改善表彰を受賞した荒川区立峡田小学校と武蔵村山市立小中一貫校村山学園、武蔵野市教育委員会に事例発表をしていただきました。

事例発表1 荒川区立峡田小学校

荒川区立峡田小学校における
校務改善の推進について



「常に清潔な教室環境で信頼される学校づくり」をめざして、校長先生のリーダーシップのもと、校務改善を推進しています。

「学校経営方針に直結」…子供たち一人一人としっかり向き合える学校を。

「凡事徹底と分かりやすさ」…誰からも信頼される学校を。第一印象が大切。

「トップダウンとボトムアップ」…毎週金曜日の3校時に校務改善推進会を開催。

学校全体での校務改善への取組が、学校経営方針に直結し、学力の向上、学習規律の定着、教育環境の充実につながりました。また、校務改善推進委員会が中心となり、組織的に負担軽減、業務の効率化を図ることで、教職員の校務改善への意識も高まりました。効率的な業務の取組により、研修の充実に向けた時間の確保ができ、教職員の資質と意欲の向上、および指導力の向上につながったという成果が報告されました。

事例発表2

武蔵村山市立小中一貫校村山学園



村山学園の校務改善

学力の向上、一貫教育の推進をめざした学校システム全体の見直し

「施設一体型小中一貫校」である村山学園では、小学部と中学部双方に教務主任や生活指導主任が配置され、強い責任感をもって職務にあたっていますが、同じ教育活動に対してそれぞれが別の起案をすることもみられる状況でした。

そこで、「一つの学校、みんなで一緒に」を合言葉に、平成26年度に校内組織の大きな改編を行いました。従来の「主任」という言葉を廃止し、部長、副部長、課長という職名を用いて小学部と中学部を合体させたライン組織を新たに導入。双方の教員が混在するラインを作ることで、必然的に連携をとらざるを得ない学校組織、「村学校務システム」を作り上げました。

会議の徹底した効率化等で生み出された時間を活用し、全教員が充実した校内研修体制のもと、教員としての資質向上、指導力向上に励んでいるという報告がありました。

事例発表3 武蔵野市教育委員会

東京都教育委員会
平成28年度校務改善推進事業発表会

教員の多忙化解消に向けた取組
～先生いきいきプロジェクト～

平成28年11月4日
武蔵野市教育委員会

武蔵野市教育委員会では、平成26年度に「武蔵野市立学校教職員意識調査」を実施しました。これらの結果を受け、教員一人一人の校務改善や負担軽減を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保するとともに、ワークライフバランスの視点に立った健康増進に寄与するため、平成28年4月に「先生いきいきプロジェクト」を立ち上げました。

1. 教員が児童・生徒と向き合う時間の確保に向けた取組
 - ① 市の派遣相談員及びスクールソーシャルワーカーの増員に伴う相談機能体制の充実
 - ② 総合的な学習の時間等で活用する地域人材の斡旋・調整
 - ③ 嘱託員の業務内容の明確化 等
2. 教員一人一人の健康増進に向けた取組
 - ① タイムレコーダーを活用した出退勤システムの構築
 - ② 定時退勤日の設定
 - ③ 長期休業中の学校閉庁日の設定 等

校務改善ホームページ

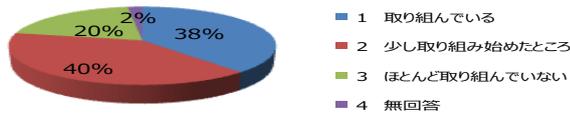
東京都教育委員会のホームページ下方にバナーがあります。



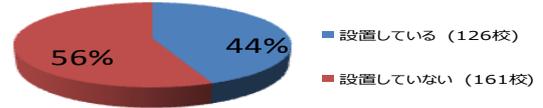
「平成28年度 校務改善推進事業発表会」の発表資料（パワーポイント資料）も掲載しています。ご覧ください！

校務改善推進事業発表会アンケートより【抜粋】

校務改善の取組の状況について

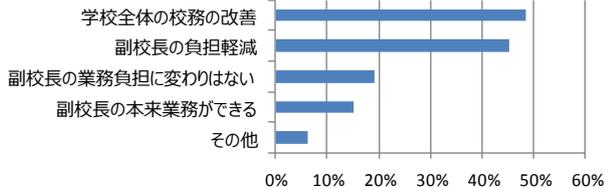


現在の経営支援部の設置状況
(回答数 287)



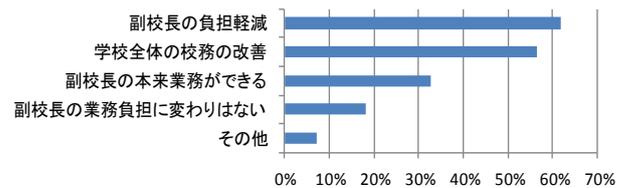
経営支援部設置の効果について

(対象：経営支援部設置校 126校・複数回答可)



経営支援部設置の効果について

(対象：126校中、副校長 55名・複数回答可)



校務改善推進事業発表会アンケート自由回答より【抜粋】

〈全般〉

- ・今回の発表会では、校務改善の具体的な実践例、姿勢を学ぶことができ、参加して本当によかったと思う。(校長)
- ・事務的な仕事を軽減して、教室で子供と向き合える時間を増やすことは、校長の責務であると思う。(校長)
- ・限りある時間、人材の中でどう子供たちの力を伸ばす教育を行っていくのかを教えてください。自校に持ち帰り、検討し、必要であれば校長に進言したい。(主幹教諭)
- ・仕事の量を減らす、効率化することももちろん大切だが、教職員同士が協力し、やりがいをもって取り組めるようにすることも大切だと思う。そうすることで、精神的な疲労感が大きく変わると思う。(主任教諭)
- ・非常に意義のある取組と感じた。同じ思いで歩むことのできる教員を増やしたい。(教諭)

〈事例発表に関して〉

- ・峡田小の発表は、「校長のリーダーシップ」の一言に尽きる。経営方針に直結した改善というキーワードは、どの学校でも必然となるものであり、自校の在り方について見直そうと思った。特別ではない峡田小の実態と校務改善に向けた取組は非常に参考になった。(校長)
- ・村山学園は、小中一貫校という環境下で、2つの違う文化をもつ組織と大所帯をどのように一体化させるのか、という問いに応える実践であり、大変興味をもった。校務改善の核は、校長のリーダーシップ、さらにいえば強い信念であると確認できた。しっかりとしたプラン、それを実現する実行力が大変素晴らしいと感じた。(校長)
- ・武蔵野市の発表が大変良かった。各学校への協力を求めるだけでなく、教育委員会自身が校務改善を推進している。(校長)
- ・武蔵野市の「先生いきいきプロジェクト」を聞き、当区としても実践できる項目がないか検討していきたい。(教育委員会)

〈学校事務に関連して〉

- ・大変有意義な時間でしたが、学校事務職員として、教育職（管理職）が自分たちに何を期待し、何を求めているかを伺いたかったです。事務職員の今後の在り方、求められる資質、役割について知る機会があるとありがたいです。(事務職員)
- ・実践している学校の生の声を聞くことができ、大変役に立ったが、行政職員（都事務）の発表もあると校務改善を進める上でとても参考になると思う。(事務職員)
- ・給食費や私費会計等の事務処理を担当（教員）から切り離している区市の取組を是非全都的な取組にして欲しい。教員が本来もっと頑張らなくてはいけないこと（峡田小の実践）は、本校でも実践していきたい。(主幹教諭)

グラフからも、アンケートの感想の記述の内容からも、本発表会の事例発表や質疑応答を通して校務改善の必要性を再認識したり、自校の取組に生かせるアイデアを得たり、自校の改革に向けて意欲を高めたり、と参加してくださった方々の前向きな姿勢が伝わってきました。また、それぞれの職層、立場からのリアルな声も収集することができました。今後も、学校、教職員のニーズにあった発表会を開催し、様々な先進的かつ実行力のある事例を広く紹介していきます。